

I K A G O 通信

滋賀県湖北地域振興局木之本建設管理部
〒529-0426
滋賀県伊香郡木之本町黒田 1234
TEL 0749-82-3434 FAX 0749-82-2654
E-mail ha36@pref.shiga.jp
URL <http://www.pref.shiga.jp/h/ki-doboku/>

伊香郡は、かつて伊香郷(いかご)と呼ばれていました。この地域の始祖「伊香刀美命(イカミ、イカミ)」を首長としたイカゴ族といわれる古代人は、加賀～伊香～甲賀～伊賀など近畿地方の東方山間部に居住した勇猛果敢な部族だといわれています。彼らは自ら「神(か)の裔(ご)」「神の子孫」ととなえ、我が国の統一に際し有力に関わったとされています。



お知らせボックス

県営住宅受付窓口のご案内



総務経理課 TEL (0749)-82-3435 (直通)
(0749)-82-3434 (代表)
受付時間 8:30 ~ 17:15 (土・日・祝祭日を除く)

管内の県営住宅

団地名	戸数	所在地	募集形態	備考
西神団地	20	伊香郡木之本町木之本 1482	随時	一部単身可
黒田団地	30	伊香郡木之本町黒田 637	定期	

定期募集・・・募集は年4回です。空家状況についてはお問い合わせ下さい。
随時募集・・・常時受付し、空家がなければ待機者として登録することができます。
申込み資格等詳しいことは、木之本建設管理部総務経理課または滋賀県住宅供給公社住宅管理課(TEL077-524-5586)まで気軽にお問い合わせ下さい。

湖北地域は、山と湖と川と田園が絶妙のバランスで存在し、四季による景色の変化の良い所です。

春にはサクラが咲き、夏には緑々とした木々が山々に挿め、秋は紅葉、冬は真っ白となった雪に覆われます。

情報化、都市化の進む今日の日本社会ではありますが、のんびりと出来る空間の溢れた土地だと思います。

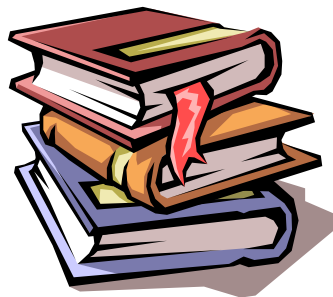
小春日の休日に、奥琵琶湖パークウェイなどについて、何も考えずのんびり景色を眺めることは、贅沢このうえない余暇の過ごし方かも知れませんね。

ーことばNOWー

黄砂

黄色の砂

中国大陸北西部で黄色の砂塵が天空を覆い、下降する現象です。3～5月頃に多く、日本にまで及ぶこともあります。写真は、建設管理部の裏から見た「黄砂に煙る賤ヶ岳」の様子です。(H14.3.22)



地域通貨

限られた地域や仲間内だけで流通する疑似通貨のことをいいます。ボランティアに対する感謝の気持ちなど、お金で表せない価値を循環させたり、地域からの富の流出を防いだりする機能があります。利殖の手段となる法定通貨と異なり、利子はつかず民間非営利団体(NPO)など住民自身の手で発行されています。

経済のグローバル化に反発するかのよう、1990年代以降、欧米を中心に普及し、現在、世界で2500以上あるとされています。日本でも「クリン」(北海道栗山町)、「おうみ」(滋賀県草津市)など、コミュニティづくりや商店街活性化を目的に、100以上の地域で発行されています。



黄砂に煙る賤ヶ岳(H14.3.22)

各課紹介

第1回 管理建築課



管理建築課では、大きく分けて2つの仕事を行っています。それは、管理担当業務と建築指導担当業務です。それぞれの業務内容は以下のとおりです。

(管理担当業務)

- ・官民境界業務
- ・道路、河川、港湾の管理許認可事務
- ・砂利採取、砕石の許認可事務
- ・砂防指定地の制限行為の許可事務

- ・急傾斜地崩壊危険区域内制限行為の許可事務
- ・開発行為の許可事務
- ・屋外広告物の許可事務

(建築指導担当業務)

- ・建築基準法による確認申請等の審査検査事務
- ・住宅金融公庫法による審査検査事務

- ・浄化槽設置の届出の受理等事務

これらの件でご相談、ご質問がありましたら気軽に管理建築課までご連絡下さい。



連絡先 管理建築課 管理担当 TEL (0749)82-3705 (直通)

建築指導担当 TEL (0749)82-3540 (直通)

(0749)82-3434 (代表)

受付時間

8 : 3 0 ~ 1 7 : 1 5 (土・日・祝祭日を除く)

鶯の声～山菜情報～

フキノトウ「今が旬。採り頃・食べ頃」<料理：てんぷら・味噌あえ>

4月～ワサビ、中旬～ゼンマイ・ツクシ

4月下旬～ギボシ・カワラゼンマイ(コゴミ)

5月～ウド、中旬～ネガマリダケ・タラの芽・ワラビ・山椒・シズクナ(ヤブレガサ又はハウキチナ)・コシアブラ(コンテシ)・ヤマブキ

6月～ミズブキ・オオアザミ



古道紀行

栃の木峠(伊香郡余呉町中河内)



近江と越前を結ぶいくつかの街道の中でも、北国街道の要衝にあたる栃の木峠は、最も高く(標高 537m)最大の難所であったため、別名「栃の木越え」とも呼ばれていました。木の芽峠が敦賀より京に通じる西近江路と言われるのに対し、東近江路と言われ、北陸から中京方面への街道でした。

古くは、木曾義仲が都へ攻め上るため通ったという記録(源平盛衰記巻三)もあります。

戦国時代末期の天正六年(1587年)柴田勝家が越前北の庄に封ぜられた時、安土、京都方面への近道として道巾三間といわれる大道に改修しました。ところが、信長が本能寺の変で明智光秀に暗殺された後、羽柴秀吉と対立し、賤ヶ岳の合戦で勝家が敗れると、秀吉は改修された峠道を越前北の庄へ攻め入りました。皮肉なことに勝家は、

自らが開いた峠道によってとどめをさされたわけです。以来、旅人の往来で大変にぎわい、福井県指定無形文化財、羽根曾踊りで「今庄朝たち、木之本泊まり、中河内で昼弁当」と歌われ、当時の様子がうかがえます。

栃の木峠の名は、峠の象徴でもある樹齢500年、樹高25m、周囲約7mの栃の巨木(天然記念物昭和四九年(1974年)福井県指定)をはじめ、栃の木の群生が峠付近にあったことに由来しています。そして、現在では国道365号が峠を通り、武生市から伊香郡余呉町を経由して、四日市市に至る幹線道路となっています。滋賀県の最北端である栃の木峠付近は、日本でも有数の豪雪地帯で積雪が4mを越えることもあります。

みちしるべ



向源寺（渡岸寺観音堂）

滋賀県伊香郡高月町渡岸寺 5 0

自動車：国道 3 6 5 号木之本方面左手すぐ
国道 8 号木之本方面右手 5 分

電車：J R 北陸本線高月駅下車 徒歩 1 0 分

高月駅から北へ 6 5 0 m ほど歩いた向源寺（こうげんじ）の境内に渡岸寺観音堂があります。ここの収蔵庫（慈雲閣）の中にその名を全国に知られた国宝の十一面観音像が安置されています。

この観音像は、頭上に十一の小面を持った変化観音で、それぞれに化仏を持ち、十一体の観音の働きを一つの体に表したものと考えられています。特徴は、小面を出来るだけ大きくするために、三段に配置することによって頭部が大きくなるようにしている点です。

観音像は、長く右手をおろし、腰をやや左に微妙にひねり、右膝をゆるめゆったりと立っています。その胸や腹のくびれや厚い肉付きの太股と艶やかな肌は妖しい光を放つといわれています。その美しい姿は現代によみがえる平安美女のようで、官能的ですらありますが、崇高さはまったく失わず「東洋のヴィーナス」と呼ぶにふさわしい第一級の文化財で、明治三十年（1 8 9 7 年）に特別国宝に指定されています。

伝えによると天平八年（7 3 6 年）都で流行した疫病の憂いを絶つため、聖武天皇の勅願により、厄除け祈願を込め彫られたものといわれています。元龜元年（1 5 7 0 年）織田信長と浅井長政による姉川の合戦の際には、寺は焼失しましたが、観音像は村人の手により土中に埋められ難を逃れたといわれています。湖北地方にはこれらの観音像が多く存在し、作家「井上靖」もこの地に訪れ、小説「星と祭り」の題材としています。



北淡海・丸子船の館

滋賀県伊香郡西浅井町大浦 5 8 2

自動車：国道 3 0 3 号今津方面左手 5 分

電車：J R 湖西線永原駅下車車で 5 分

J R 北陸本線近江塩津駅下車 車で 1 0 分

琵琶湖の最北端に位置する西浅井は、古く万葉の時代より北陸と京・大阪をつなぐ交通の要衝として、人々の暮らしと密接に関わってきました。

大浦、菅浦、塩津浜の港があり、陸上と湖上輸送の中継地として大変賑わったようです。その湖上輸送の主役を務めたのが丸子船です。丸子船は船底が丸く、二つ割りにした丸太を胴の両側に付けた、他に類を見ない琵琶湖独特の外観をしています。

「北淡海・丸子船の館」ではこの丸子船をメインテーマに西浅井町の歴史や古の人々のロマンとふれあうことが出来ます。丸子船の実物の展示や船体備品、航海、荷造備品から生活用品まで貴重な資料が展示されています。



砂防事業

滝ヶ谷（木之本町大見地先）

木之本町大見にある「大見いこいの広場」の建設に合わせて、全面に自然石を配置し、景観と自然環境に配慮した砂防施設整備を行いました。夏場はキャンプもでき、水と親しめるような施設となっています。（写真右）



白谷川（余呉町菅並地先）

水生生物の生息に配慮し、平常時は溪流の上下流の連続性を維持し、洪水時には土石流をくい止めるスリット堰堤（透過型の堰堤）を設置しました。また下流には多自然型護岸、及び魚道を設置し水生生物の生息環境に配慮しています。

河川事業



一般的改修 治水対策、洪水対策として、規模の大きい補助事業として、余呉川・大川で施工している”広域基幹河川改修事業”があります。それ以外に、県単独の河川改良工事の施工をしています。

写真は余呉川下流域における全国でも例が少ないトンネルによる放水路工です。

維持補修・環境整備 地域と連携を図りながら河川敷の整備・護岸の整備を行います。その中でもみずべみらい再生事業については、高水敷の整備・環境に配慮した護岸工など自然にやさしい事業を推進しています。写真は高時川の高水敷を利用した広場です。

編集後記

このたび、木之本建設管理部の個性を発揮し「木之本建設管理部らしさ」を広く発信するため、部内各課、各担当の代表委員によるパブリシティ（Publicity）委員会を設置し、情報発信誌「I K A G O通信」を創刊することになりました。ほかにホームページの更新なども予定しています。ご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。m(--)m

発行 木之本建設管理部パブリシティ委員会
事務局 計画調整課 TEL0749-82-3881